

A-3 : 研究機関とURA

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 15:30 - 17:00 会場A

「D.I.Y!」未来の研究環境を自ら設計する 研究者たちにどう貢献するか

日本の大学に所属する研究者の経歴や雇用形態は近年多様化している。その多様な研究者がもつ経験知は、大学の研究戦略の議論に資するものである。多様な人材は若手層に集中しているにも拘らず、若手が当事者として大学における施策の検討に参加する枠組みは確立されていない。一方で、欧州の大学においては、今後10年で研究者の大規模な世代交代が予測される国を中心として、若手研究者によるネットワークづくりや科学政策への関与が活発化している。また、日本でも経済産業省において、技術革新に若手目線を反映させるワーキンググループが、2020年春、立ち上がっている。

本セッションでは、次世代を担う研究者等自らが未来の研究環境を開拓しようとする国内外の取組み事例を紹介する。

具体的には、日本学術会議若手アカデミーに所属し、次世代の研究のあり方にコミットメントしている研究者からは、若手アカデミーの活動やその機能について、世界各国の研究機関に所属する若手研究者ネットワークが立ち上げた組織体RAICEXの主要メンバーからは、彼らの出身国であるスペイン科学省に対する提言活動について、それぞれ紹介を受ける。さらに、経済産業省におけるイノベーション人材育成政策の担当者からは、産業構造審議会研究開発・イノベーション小委員会若手ワーキンググループでの議論や関連する活動についても話題提供を受ける。

パネリストとともに、多世代共創による施策検討推進の可能性とそのインパクト、そして推進におけるURAの役割を討議する。

セッション担当者

仲野 安紗： 京都大学 学術研究支援室
リサーチアドミニストレーター
次世代研究者支援チームリーダー



東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻(保存修復建造物)修士課程修了、博士課程研究指導認定退学。文化庁新進芸術家海外研修員としてMansilla+Tuñón Arquitectos(マドリッド)に勤務、国立王室コレクション美術館を担当。以降、7年間にわたリスペインを中心に近代建築保存修復・設計に携わる。帰国後、京都造形芸術大学美術館大学構想ディレクターに着任(～2012年)、一般社団法人Drifters International 理事(～現在)。2014年から現職、若手研究者を中心とした研究環境に関する支援を担当。

登壇者

Susana de Vega : ACE Japón 会長



順天堂大学 医学研究科 運動器・腫瘍性疾患病態学講座
シニア・リサーチャー/助教

Graduated in Biology (BsC) in 1999 from the University of the Basque Country, Spain, obtained her PhD in Cell and Molecular Biology from the same Univ in 2004. Then she moved to the National Institutes of Health (NIH, Bethesda, MD, USA) as a researcher in the cell biology and tumor microenvironment field from 2005 to 2011. From 2011 she works at the Juntendo University, Faculty of Medicine, where she continues her research in the tumor biology field.

Secretary (2014-1018) and chairwoman (2018-2020) of the Association of Spanish Researchers in Japan-ACE Japón (www.acejapon.jp) combining her academic experience with the promotion of science carried out by Spanish researchers in Japan, and the scientific relations at national and international level.

Raquel Simancas : ACE Japón



東京大学 工学系研究科 化学システム工学専攻
Project Academic Support Specialist

After obtaining her PhD from the Polytechnic University of Valencia in Chemistry in 2015, she has worked as a postdoc researcher in Japan in the field of chemical catalysis at Kanagawa University (2015-2018) and Tokyo Institute of Technology (2018-2020). From 2020 she continues her research in the chemical catalysis at The University of Tokyo. Chairwoman of the Association of Spanish Researchers in Japan - ACE Japan (www.acejapon.jp) since 2020.

西嶋 一欽 : 日本学術会議 若手アカデミー国際分科会副委員長



京都大学 防災研究所 気象水象災害研究部門
准教授

1978年生まれ。日本学術会議若手アカデミー国際化分科会副委員長。京都大学防災研究所 准教授。東京大学工学部建築学科を卒業。同大新領域創成科学研究科環境学専攻社会文化環境コース修了。スイス連邦工科大学チューリヒ校にて博士号を取得。同大上級研究員、デンマーク工科大学土木学科准教授を経て、2013年から現職。また、2016年からウオータールー大学客員准教授、2017年から日本学術会議連携会員。趣味は古民家。老後の夢は、のんびり田舎暮らしをしながら数学の勉強をすること。

杉山 実優 : 経済産業省 産業構造審議会研究開発・イノベーション小委員会
若手ワーキンググループ 発起人



経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室 人材育成担当

経済産業省 大学連携推進室。(株)リクルートキャリアにて新卒採用、社内人事を担当したのち、2019年より経済産業省へ出向。産学連携における人材育成支援に取り組むかたわら、イノベーション政策の議論に未来の当事者である若手に関わる機会があると良いのではないかの思いから、「官民若手イノベーション論ELPIS」を立ち上げ・運営。産業構造審議会研究開発・イノベーション小委員会の下に2020年4月より新設した「若手ワーキンググループ」を事務局として企画・運営。

登壇者

伊藤 健雄: 京都大学 学術研究支援室
シニア リサーチアドミニストレーター
産官学連携推進グループリーダー



京都大学工学研究科博士(工学)修了。京都大学工学研究科助教を経て、2014年に京都大学学術研究支援室(KURA)URAに着任。途中、2014年から2年間、経済産業省産業技術環境局大学連携推進室室長補佐として、理工系人材育成施策やクロスアポイントメントの枠組策定にかかる業務を担当。2016年に京都大学に帰任後、現在はKURAの産官学連携推進グループリーダー、桂地区担当チームリーダーとして業務に従事。

鮎川 慧: 京都大学 学術研究支援室
リサーチアドミニストレーター 国際グループ



京都大学学術研究支援室(KURA)主任URA。東京大学大学院工学系研究科で東アジアの都市・建築の歴史を研究した後、2014年より現職。現在は主にKURA国際グループの欧州拠点担当として欧州地域との研究交流支援を行うとともに、次世代研究者向けの学内ファンドの企画・運営、KURAの組織広報に携わる。2016年から若手・中堅研究者の研究環境のヒアリングを行い、次世代研究者支援チームとしての活動を開始。

小泉 都: 京都大学 学術研究支援室
リサーチアドミニストレーター 人社系グループ



京都大学理学部卒業。同アジア・アフリカ地域研究研究科にて博士号取得。龍谷大学非常勤講師、総合地球環境学研究所プロジェクト研究員、京都大学農学研究科研究員、京都大学総合博物館日本学術振興会特別研究員、京都外国語大学非常勤講師を経て、2018年から現職。すべての趣味は子育てで封じられました。実現の見通しの立っていない夢は、美味しいものを食べ続けるために、田畑を継いで、農業と狩猟で食料の一部を自給すること。